

2011年 木曜1限

教育臨床心理学 担当教員：石垣琢磨

シケプリ 作成：文科3類7組 片瀨陽平

はじめに

教育臨床心理学の成績の付け方は、出席点 20 点、前バラシ問題 50 点、1 問 1 答形式の 30 点と なっています。このシケプリは「前バラシ」分の問題 50 点について、その解答例を示したも のです。

問1 統合失調症の一次障害・二次障害について説明し、それらに対する生物-心理-社会的支 援の方法について述べなさい。(20 点)

(解答例)一次障害である機能障害は、統合失調症に固有であり、中核を成す症状である。例えば シュナイダーの一級症状に挙げられる、幻聴や考想奪取、妄想知覚などがある。対して二次障害 は生活障害と社会的不利から成る。前者は幻聴に聞き入るなど、機能障害の結果として、日常の 社会生活能力が低下するもの、さらに後者は機能障害や生活障害の結果として、様々な社会的不 利益を被ることを指す。統合失調症の生物学的要因はドーパミンレセプターの増加による「ドー パミン仮説」とされるが、発症・再発は心理学的・社会学的要因が大きい。例えば EE(expressed emotion)のように家族からの影響もその例である。これらを踏まえ、生物学的治療法には薬物 療法があり、陽性症状に対しては機能的ゆえに効果がある。そのため副作用の少ない第二世代・ 第三世代の統合失調症治療薬(antipsychotics)の開発が求められる。一方、心理・社会的介入と して、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を含む認知行動療法を合わせて行うことが有効 である。またアクセスのしやすさなど、福祉資源の充実も有効であろう。

問2 アイデンティティが有する 2 つの側面について説明しなさい(10 点)

(解答例)アイデンティティは「内的統一感」「社会的受容感」の 2 つの側面を有する。前者は、 誰とも異なる自己の独自性・単一性、過去との連続性の感覚を指す。後者は、特定の人あるいは 集団との相互交流によって獲得される私の存在を社会が承認しているという感覚を指す。

問3 青年期平穩説について説明しなさい(5 点)

(解答例)子どもの発達に合わせた対応が取れた家族の子どもは平穩な自立の過程をたどること ができるという説(ビューラー, 1932)

問4 対象喪失にはどのようなものがあるか説明しなさい(5点)

(解答例)対象喪失には次のような事例が挙げられる。まず近親者の死や失恋など、「愛情や依存対象の喪失」がある。また引っ越し、昇進、転勤、進学、結婚などのように、「住み慣れた社会的・人間的環境や役割からの別れ」が挙げられる。さらに国家の解体等によるアイデンティティの喪失、財産・能力・地位、身体的自己の喪失に代表される、「自分の誇りや理想、所有物の意味を持つような対象の喪失」がある。

問5 喪の作業について、3つの段階を挙げて説明しなさい(10点)

(解答例)喪の作業は次の3段階から構成される。第一に対象喪失を否認する段階。第二に対象喪失を深めることで、激しい絶望と失意、不安、不穏、引きこもり、無力状態(抑うつ)に陥る段階。第三に失った対象の断念、新しい対象の発見という段階がある。このプロセスで、失った対象への罪悪感、悔やみ、償い、アンビバレンス、恨み、失った対象からの恨みや怒りに対する恐怖など、様々な心理が伴う。また対象の喪失による悲哀は、うつ病と類似する点もあるため、区別が必要である。

以下は、第1回～第9回までの授業及び教科書内容からキーワードを抜き出したものである。

第1回(4月14日)

ヴェント 実験心理学の祖 ウィリアム・ジェームズ 機能主義 ウィットマー 臨床心理学 フロイト 行動主義心理学 フロイト 精神分析の祖

第2回(4月21日)

知能 ターマン 知能指数(IQ) スピアマン 知能の2因子説 サーストン 知能の多因子説 キャッテル 流動性知能と結晶性知能 精神遅滞 ICD-10 精神発達検査 ピアジェ ブリッジスの情動分化図式 基本情動 社会的情動 共鳴動作 社会的参照 心の理論 広汎性発達障害 自閉症スペクトラム 自閉症 ウィングの三つ組症状 レット症候群 折れ線発症 アスペルガー症候群

第3回(4月28日)

注意欠陥多動性障害(ADHD) 微細脳障害 ドーパミン ノルエピネフリン 二次的影響 ビジランス 覚醒 ヤーキーズ=ドッドソンの法則 逆U字曲線 Continuous Performance Test 学習障害(LD) 読字障害 書字障害 算数能力障害 読み書き能力(リテラシー) 音韻意識 鏡映文字 虐待 ネグレクト 世代間伝達 愛着(アタッチメント) 愛着行動 信号行動 定位行動 能動的な身体接触 内的作業モデル ストレンジ・シチュエーション 愛着のタイプ 回避型 安定型 抵抗・両価型 無秩序型 成人愛着面接 母性的養育剥奪 依託抑うつ

第4回(5月12日)

適応的基準 価値的基準 統計的基準 病理的基準 規準集団 バーナム効果 観察者(評定者)一致率 出現頻度一致率 再検査一致率 生涯有病率 典型的症状 気分の異常 意欲の異常 行動の異常 思考の異常 睡眠の異常 ディスチミア親和性 メランコリー親和性 グルココルチコイド 神経栄養因子 近赤外線スペクトロスコピー(NIRS) デキサメサゾン抑制試験 ベックの抑うつ理論 抑うつスキーマ ネガティブ・ライフイベント 推論バイアス 自動思考 エリスのABCモデル 不安障害 パニック障害 回避行動

第5回(5月19日)

一次障害 機能障害 二次障害 生活障害 社会的不利 シュナイダーの一級症状 幻聴 考想化声 考想奪取 自我障害 2症候群仮説 陽性症状 陰性症状 Liddleの3症候群仮説 精神運動貧困説 解体説 現実歪曲説 ドーパミン仮説 認知機能障害 EE(expressed emotion) ソーシャル・スキル・トレーニング(SST) 認知行動療法 ヒヤリング・ヴォイス体験 ジャスパースの妄想3指標

第6回(5月26日)

精神作用物質 アルコール アヘン 大麻 鎮静剤 睡眠薬 コカイン カフェイン 幻覚剤(LSD) タバコ 揮発性物質(シンナー) 精神依存 身体依存 離脱症状 耐性 交叉耐性 報酬系 ドーパミン オピオイド受容体 GABA 受容体 アルコール依存 期待理論 緊張低減理論 モデリング理論 バランス理論 ストレスへのコーピング 接触アプローチ 適応アプローチ 器質性精神障害 器質病変 症状精神病 失見当識 アルツハイマー型認知症 記銘力障害 改訂長谷川式簡易知能スケール 介護 廃用性要因 心因性要因 症候性要因

第7回(6月2日)

アイデンティティ エリクソンの心理社会的発達論 個体発達文化図式 内的統一感 社会的受容感 アイデンティティの確立と離散 マーシャのアイデンティティ・ステータス 危機の経験の有無 積極的関与の有無

第8回(6月9日)

青年期 第二反抗期 第一反抗期 心理的離乳 ホリングワース 青年期平穩説

第9回(6月16日)・第10回(6月23日)

フロイト 精神分析 シャルコー 催眠法 ナンシー学派 前額法 後催眠暗示 催眠浄化法 自由連想法 『ヒステリー研究』 無意識 性的外傷説 フリース 心的現実 エディプス・コンプレックス 『自我とエス』 心的構造論と不安信号説 心的装置 意識 前意識 無意識 自我 エス 超自我 リビドー アグレッション 固着 退行 アンビバレント カンバーグ 人格構造論 古典的精神分析療法 精神分析的心理療法 アセスメント 描画 SCT(文章完成法テスト) 質問紙法 アセスメント面接 転移 逆転移 治療構造 対象喪失 喪の作業